

第4回次世代モビリティサービスの在り方に関する検討会
議事録

1. 日 時：令和2年3月13日（金） 15：00 ～ 17：00

2. 場 所：大分第2ソフィアプラザビル2階「ソフィアホール」

3. 出席者：以下参照

■ 委員

| ご所属 | 氏名（敬称略） |
|--------------------------|---------|
| 日本文理大学工学部建築学科 教授（委員長） | 吉村 充功 |
| 一般社団法人大分県バス協会 専務理事 | 脇 紀昭 |
| 九州旅客鉄道株式会社 大分支社 支社長 | 貞苺 路也 |
| 社会福祉法人シンフォニー 理事長 | 村上 和子 |
| 公益社団法人ツーリズムおおいた 会長 | 幸重 綱二 |
| 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 所長 | 青木 栄二 |
| 大分県商工観光労働部 部長（副委員長） | 高濱 航 |

■ 大分県

| ご所属 | 氏名（敬称略） | |
|---------------------|------------|--------|
| 大分県商工観光労働部 （事務局） | 理事（事務局長） | 工藤 典幸 |
| | 工業振興課 課長 | 田北 正宏 |
| | 工業振興課 参事 | 小谷 公人 |
| | 工業振興課 主任 | 小野 裕明 |
| | 情報政策課 主幹 | 阿部 浩孝 |
| | 情報政策課 主事 | 小倉 良介 |
| 大分県企画振興部 | 交通政策課 課長補佐 | 長濱 誠一 |
| | 交通政策課 主事 | 伊東 祐太郎 |
| 大分県土木建築部 | 主幹 | 河野 幸次 |
| | 主査 | 田北 亮平 |
| 大分県福祉保健部 | 福祉保健企画課 主任 | 山下 恒平 |
| 大分県西部振興局地域振興部 | 主事 | 井尻 凧 |
| 大分県東部振興局地域振興部 | 局長 | 大塚 浩 |
| | 主幹 | 二宮 克彦 |
| | 副主幹 | 佐藤 健治 |

| | | |
|-------------------------------|-------|--------|
| 大分県中部振興局地域振興部 | 課長補佐 | 衛藤 寛 |
| 大分県南部振興局地域振興部 | 部長 | 佐藤 聡 |
| 大分県豊肥振興局地域振興部 | 主幹 | 熊懷 武司 |
| 大分県北部振興局地域振興部 | 部長 | 曾根田 英雄 |
| | 課長補佐 | 宮成 智宏 |
| 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（事務局） | 主任研究員 | 近藤 洋平 |
| | 研究員 | 植野 真史 |

■ 九州経済産業局

| ご所属 | 氏名（敬称略） |
|----------|---------|
| 製造産業課 課長 | 平田 実 |

■ 市町村

| ご所属 | 氏名（敬称略） |
|----------------|---------|
| 日田市まちづくり推進課 課長 | 中嶋 美穂 |
| 日田市まちづくり推進課 主査 | 永楽 智史 |
| 由布市総合政策課 課長補佐 | 米津 康広 |

■ その他

| ご所属 | 氏名（敬称略） |
|-------------------|---------|
| 有限会社津江タクシー | 鷹野 恵祐 |
| MONET テクノロジーズ株式会社 | 澤 竜也 |
| ダイハツ工業株式会社 | 岡本 仁也 |
| | 小出 朗 |
| トヨタ自動車株式会社 | 小澤 紘之 |

■ 傍聴

| ご所属 | 氏名（敬称略） |
|-----------------|---------|
| 別府市 企画部総合政策課 主査 | 原田 直樹 |
| 臼杵市議会議員 | 伊藤 淳 |
| | 河野 巧 |
| 臼杵市観光情報協会 | 後藤 慎二 |

4. 議事内容

(1) 開会

- 配布資料確認

【吉村委員長】

- ・ 2月に実証実験および視察を行ったが、現場に足を運ぶことは我々にとって議論のベースとなる。本日実証実験の報告もあるため実りある議論ができればと思う。また、後半には中間とりまとめによって今後の方向性を示すという大切な会となるため協力いただきたい。

(2) 議事

1. 「実証実験の結果報告」に関する事務局からの説明

- 事務局より、資料1「令和元年度実証実験 結果報告（高齢者の移動手段の確保）」を説明

【高濱】

- ・ 資料1P.4にバス利用者で電話予約した方の満足度が36.8%とある。電話予約の利用者はシステム導入前後で特に変わっていないと思うが、満足したと回答した方は何が変わったのか。

【鷹野】

- ・ システム導入前は、急な電話依頼は配車時刻をずらして対応していた。導入後は、運航計画の作成自動化により時刻をずらすことなく配車することができた。待たせることがなくなった結果ではないか。

【高濱】

- ・ アンケートからは見えないメリットも整理をお願いしたい。
- ・ 運転手のモチベーション向上といった、経済価値に現れない点もメリットであると考ええる。

【青木】

- ・ 「アプリの使い方がわからない」と回答した人に対する対応は。

【鷹野】

- ・ パンフレットの配布など、出来る限り使い方の説明は行ったが、分かりにくかったかもしれない。

【澤】

- ・ Softbank社ではスマホを高齢者に根付かせる「スマホアドバイザー」という取組を行っている。今後、高齢者の方にスマホアプリを使っただけのように、現地に行つて「スマホアドバイザー」から説明をする機会を日田市と協議の上設けたいと考えている。

【吉村委員長】

- ・ MONET 社としては、この結果をどのように捉えているのか。

【澤】

- ・ 弊社としては、他地域と比較しても非常によい数値が出ているという認識である。想定以上の効果が出ていると思う。国内では約 20 地域の実証実験を行っているが、ここまでの数値が出ているのは今回が初めて。今後、この結果の背景などを分析していきたい。

【吉村委員長】

- ・ 日田市の見解も伺いたい。

【中嶋】

- ・ 高齢者の使用が少ないなどは想定していた。
- ・ 上・中津江という地域上、山間のため冬は寒いといった課題がある。時期がかわり、「スマホアドバイザー」の支援などもあるとさらにより数値が出ることが期待できる。

【吉村委員長】

- ・ 津江タクシーの意見はいかがか。

【鷹野】

- ・ システムを使うことで業務を効率化できたという実感はあった。但し、利用者の 9 割をしめる高齢者は電話予約が多いため、配車の仕方を工夫する等により利用者に対するメリットをさらに還元できるようにしていきたい。
- ・ 業務効率化により業務負担が軽減された。その軽減された分を他に活かしていければと思う。

【吉村委員長】

- ・ それぞれからコメントをもらったが、これを踏まえて委員から意見はあるか。

【高濱】

- ・ 全体的なコメントになるが、コロナウィルスの影響で、人の移動がなければ経済が大きく落ち込むことを実感している。人の移動を増やすことで経済の活性化にも繋げていきたい。
- ・ IT は人に優しいものでなくてはいけない。高齢者にとっても使いやすいものとなるように MONET 社には引き続き支援いただきたい。

【貞苺】

- ・ 資料 1P.5 にあるとおり、コストは比較的大きい課題と感じている。業務効率化の効果があるという意見もあるが、コスト負担に対する見解を教えてほしい。

【鷹野】

- ・ 個人の見解ではあるが、継続して続けていきたい。

【永楽】

- ・ 15 万円/月というコスト負担がある中で、今後はこの実験の結果を金銭化するなどしてコスト負担に見合うのか検討していきたい。現段階では効果よりもコスト増の方が大

きいという印象である。

【吉村委員長】

- ・ PR 方法によっては、アプリ利用により観光客などの外部の方を取り込むことができるのではないか。
- ・ 路面凍結により運休になった日のアプリ利用者への通知方法を教えてほしい

【鷹野】

- ・ 市の防災放送により、前日から運休の可能性を伝えていた。
- ・ 電話予約者には、予約の際に電話で運休の旨を伝えた。また、アプリ利用者には、登録時に電話番号を入力しており把握出来ているため、電話でお伝えした。

【吉村委員長】

- ・ メールやアプリ上で運休を知らせる仕組みはあるか。

【澤】

- ・ 現状ではメールでの周知はしていない。
- ・ 交通事業者の配車画面上から「運休」を設定することでアプリ予約時に運休になったことが伝わる、という仕組みはある。

【吉村委員長】

- ・ 突発的な運休に対してシステムで対応できれば交通事業者の負担軽減にもつながると考える。

【工藤】

- ・ 資料 1P.6 で利用者のデータでは身障者等の利用が増えているが、これはどういったことからか。

【鷹野】

- ・ 利用者は高齢者が多い。足腰が不自由な方はもともとデマンドバスを利用しているが、そのような方が身障者手帳を提示すと数としてカウントされる。こうした方が増えた可能性はある。

【村上】

- ・ 現地視察をして大変勉強になった。交通事業者にとってシステムは便利なため、システムがない状態には戻れないという話もあった。
- ・ 現地視察での高齢者インタビューの際に、当該地域で自立して生きることの誇りを感じていると伺えた。地域交通は、高齢者にとっての足としての価値以上のものがある。目に見えない価値ではあるが、その価値まで考慮することが望ましい。

【吉村委員長】

- ・ 数値に現れないメリットについても踏まえていくことが望ましい。

【高濱】

- ・ 県としては実装するまでが実証実験と考えている。実装にむけて地域内だけでの経済価値ではなく、より広い視点でのメリット・デメリットを整理し、実装に導いていき

たい。MONET 社にも引き続き支援をお願いしたい。

【青木】

- ・ アプリ予約が可能になったことで、導入前に戻れないという話があった。今回は 40 日間だけでの実証であったため、ユーザーインターフェースはまだ改善の余地がある。今後は 70 代以降も使いやすいユーザーインターフェースを追及してほしい。
- ・ 7 月までの結果をまた教えてほしい。

【吉村委員長】

- ・ 事務局の方で引き続きフォローをお願いしたい。
- 事務局およびダイハツ社より、資料 1 「令和元年度実証実験 結果報告（福祉施設の通所送迎効率化）」について説明

【高濱】

- ・ ダイハツ社に確認したいが、共同送迎の結果、車両の集約化やドライバー人材の確保が出来ること、何か運転手やタクシー業界にメリットはあるのか。

【岡本】

- ・ 福祉有償運送の制度を使うと、その会員であれば相乗りが可能となる。しかし、運転手は個人としてのボランティア会員登録になる。例えば、タクシー運転手がボランティアとして輸送することはできるが、送迎業務の受託をすることはできない。

【村上】

- ・ その場合、福祉施設の運転手はボランティアになるのか。

【岡本】

- ・ 福祉有償運送は非営利団体のみ登録が可能である。福祉施設の運転手はその非営利団体にドライバー登録をしていたら運転は可能である。タクシー運転手にはボランティアに近い時給換算分のみ NPO 団体から支給される。福祉施設の勤務外の時間での報酬となる。

【村上】

- ・ 先ほどの日田市の事例ではタクシー運転手は利用者の顔・名前・住所等把握していない中システム導入したことでさまざまな効率化が図れたというものであった。一方、社会福祉法人の方は、全職員がローテーションで送迎をしているため、利用者の顔や名前、経路も熟知している。そしてどの道を通れば効率的かということも熟知している。システム利用の際に手間が発生するという認識がある様子。また、無線を利用している。システムを導入してさらに無線を残すとすると費用が倍になるため、どちらを選択するかとなったら使い慣れた無線を選ぶと思われる。
- ・ 高齢者福祉サービスの介護保険では、区分の関係でいつも利用者が入れ替わる。そのような場合はシステム導入で運行計画の変更が容易になるため便利と思う。一方、障がい福祉サービスの場合はほぼ同じ利用者であるため一回運行計画をたてれば変更す

ることもあまりなく、システムを導入するメリットを感じられないようであった。

- ・ 福祉有償運送の場合、デメリットもある。個人的考えでは、今ある交通事業者に提案して、それでもできない部分があれば福祉有償運送を検討するのがよいのではないか。

【岡本】

- ・ 現在の制度では別法人の利用者を乗り合いで送迎することは不可能となっている。現在可能なことと、将来法律の改正により可能になることを切り分けなければ現場の負担は先延ばしになると考えている。地域の公共交通団体にて実施することについては、時間軸も踏まえながら検討していきたい。

【吉村委員長】

- ・ 事務局の方で引き続き考えてもらいたい。

【青木】

- ・ 総運行時間の削減率がはかれる結果となっている。見積もりはどの程度か。

【岡本】

- ・ 共同送迎については、シミュレーション段階であり見積もりは不可能である。途中で説明した価格が決まっているらくびた送迎とは少し異なる。

【高濱】

- ・ 共同送迎は県の要望もあり実験的にシミュレーションいただいたため、まだ価格は出していない。

【吉村委員長】

- ・ 共同送迎でのシミュレーションの提示はあったが、単独で効率的ルートのシミュレーションをした場合、効率化は図られるのか。

【岡本】

- ・ 今回の検証では単独でのシミュレーションは行っていないため提示できないが、別の地域での結果をみると多少効率化は出来ている。

【吉村委員長】

- ・ 4月の導入であれば計画の作成負担が減るので有効ではないかと思った。

【岡本】

- ・ その通りで、日常業務の負担が軽減されるという認識である。

【吉村委員長】

- ・ 福祉保健部として感想はあるか。

【山下】

- ・ 資料 1P.34 に示されている「抵抗あり」についてどの程度改善できるかにかかっていると思う。事業者視点での議論も大切ではあるが、利用者側の負担も改善できればよい。
- ・ 単体事業者の効率化が図れる中で新規の利用者を入れやすくなったということだが、このような要素が増えてくると仕組みとしてはありがたいと思う。

【吉村委員長】

- ・ 利用者側の声は聴いているのか。

【岡本】

- ・ 検証レベルのため利用者の声は確認していない。

【吉村委員長】

- ・ 福祉送迎の部分は課題も多く検証期間が短いため、時間をかける必要がある。これから効果については見えてくるかもしれない。
- ・ 共同送迎については最適化のポイントが事業者によって異なる可能性がある。今後、事業者のニーズに視点をむけて構築する必要がある。

【村上】

- ・ 先述の障がい福祉サービス事業者は全職員が全利用者を把握している状態。新しく事業を始める事業者はこのシステムを導入できたら、システムを最大限活かせるため、もしかしたら日田市の事例と同じような効果を生むかもしれない。

2. 「大分県における次世代モビリティサービスの導入に向けて中間とりまとめ」に関する報告

- 事務局より、資料2「大分県における次世代モビリティサービスの導入に向けて中間とりまとめ」を説明

【村上】

- ・ P.3「四方よし」の箇所だが、前回「皆がよしになるようになることがよい」、という意味合いで発言させてもらった。四という数字にこだわっているわけではないのでそこだけ。

【事務局】

- ・ 文言については持ち帰って検討する。

【吉村委員長】

- ・ 事務局の方で引き続き対応を考えてもらいたい。他には。

【青木】

- ・ P.3の「新たな価値」という点はよいと思う。
- ・ P.4のMaaSにつながる環境整備について、オープンデータという観点が重要である。日常の移動の実感からバスデータのオープン化を進めてもらえたらありがたい。

【吉村委員長】

- ・ 「四方よし」の文言以外については、委員会にて了承を得たこととする。「四方よし」については、事務局と検討し、委員長である私と調整させていただく。

【一同】

- ・ 異議なし。

3. 「令和2年度の主な取組案」に関する報告

- 事務局より、資料3「令和2年度の主な取組案」を説明

【吉村委員長】

- ・ 来年度の取組について意見はあるか。

【高濱】

- ・ 事務局の補足。県として「先端技術の取組」を進めているが、技術ありきで進めるのではなく「課題」から入っていきたい。地域には複数の課題がある。今後は、先端技術の導入を見据えながらも、地域課題を皆さんからもいただければありがたい。

【青木】

- ・ 高濱委員のご指摘の通り。
- ・ 県内の方は大分市内に向かう移動が多い。今後は、各都市と大分市とのつなぎという点で公共交通の市町村連携も必要と思う。
- ・ シェアリングエコノミーの観点が調査研究出来るとよい。

【事務局】

- ・ いただいた意見を踏まえて検討していきたい。

【脇（大分県バス協会代理）】

- ・ 大分市にもバスの過疎地域がある。福岡市の香椎では西鉄の方でITを使ってデマンドバスに近い仕組み導入している。今後、タクシーだけでなくバスも地区を限定して実験的なことをしていければと思う。

【幸重】

- ・ 実証実験をするのはコストがかかるが、着実な運行計画や配車計画につながる。今後、予算的な部分もあると思うが、実証実験の数を増やすなども検討してもらいたい。

【村上】

- ・ 大分県はレンタカーがなければ観光地を回れないとされているが、バスで観光もできるし、住民も利用できれば利便性も図れるということを両立する視点もあればよい。

【事務局】

- ・ 大分県内では大手三社のオープンデータは進んでいる。しかし、その他企業はコストや人員の関係上難しいのではないか。個人的な意見ではあるが、行政支援があればよい。
- ・ オープンデータを活用するためにボランティアを利用する事例が全国にある。ボランティアを活用することで導入コストの軽減につなげることを検討してもよいのではないか。

【貞苺】

- ・ コストの問題は外せない。実証実験の中でコストについても検証してもらいたい。

【吉村委員長】

- ・ この会議は、課題を集めて協議する場でありプラットフォームでもある。
- ・ 民間事業者ベースでできるものはこの場でやる必要はない。コストがかかる、スター

トにハードルが高い、規制があり連携が難しい、などについては公共の支援が必要である。貨客混載などでも同様の議論がある。

- ・ 実証実験では、期間が短いためなかなか利用促進を図るなどは難しい。中長期で取り組み、仕組みを変えていくことも見据えて取り組むことで利用者が変わってくるのではないか。
- ・ この会議の事務局を商工観光労働部が持っているという意味として、地元の事業者を有機的につなぎながら育てていくことができる部分がある。この点も忘れず進めてもらいたい。
- ・ 提案の三つの方向性で進めたいという事務局の案で問題ないことをこの場で了承したい。

【一同】

- ・ 異議なし。

【高濱】

- ・ 大分県としては、やる気のある自治体とともに進めていきたい。

4. 閉会

- 来年度の日程は事務局から改めて案内する。
- 今回で R 元年度の委員会は終了する。

以上